

高梁市議会だより

第36号
2018年11月

ひとつずつ..
がんばろう高梁

小さな菓子工房
Cotoli
パン・クッキー移動販売
高梁地域市民センターにてOPEN
10・11(木)
10:00-12:00
がんばろう高梁
「がんばろう高梁」の活動の一環として、高梁市議会だよりに掲載された「Cotoli」のパン・クッキーを、高梁市議会だより編集部に届けていただきます。
高梁市議会だより編集部
〒719-0201 高梁市高梁1-1-1
TEL:086-832-2111

災害相談受付中

高梁市
豪雨災害義援金
受付中

がんばろう
高梁

がんばろうたかはし



9月定例会災害関連議案審議 2
9月定例会 4
8月臨時会 5

がんばろう!高梁
備中高梁運送事業協同組合
成羽運送株式会社

被災された皆さまに お見舞いを申し上げます

7月の西日本を中心とした豪雨災害から3カ月が経過いたしました。被災された皆さまに改めて、お見舞い申し上げます。

この間、本市議会では、議員それぞれが被災地等へ赴き、現地調査やボランティア活動を行うとともに、議会全員協議会による執行部からの被災状況の報告、臨時会開催による補正予算の承認、常任委員会の管内行政視察による復旧に向けた現状確認、市民の代表として執行部や国県に対して積極的に政策提言や要請活動を行ってまいりました。

今後においても、被災された方々の生活の再建と被災地の復旧・復興が本市における最優先の課題であることはいまでもありません。議会は、市民の皆さまの負託に応えるべく、市政の一翼を担っているという責任をかみしめ、引き続き執行部と緊密な連携を図るとともに、議員一丸となって取り組んでまいります。

高梁市議会

9月定例会災害関連議案審議

9月18日から9月26日まで、平成30年第5回高梁市議会定例会が開催されました。その中で、7月豪雨災害関連議案の審議経過をご紹介します。

●「平成30年度高梁市一般会計補正予算（第3号）」について

本議案については、個々の質問に入る前に、本議案を提案するにあたって、災害復旧についてどのように把握し、補正予算案に反映しているのかという議案全体に係る質問がありました。

●災害の原因について

災害の原因についてどのようなことを考えているのか、ダム放流、過疎による地域の荒廃、災害初動や避難所運営の問題点があるのではないかと質問がありました。

これに対して執行部からは、直接の原因は豪雨であると考えられているが、自然環境の変化や山林などの管理のことも一因であると思う。ダムについては、県

管理、中国電力管理のダム双方について、管理連絡協議会で定期的に情報伝達をしており、今回のことも検証したい。今回のことを教訓として実践的訓練を行い、また、防災計画を見直ししていきたいとの答弁がありました。

●県との情報共有について

国道を管理している県との情報共有について質問がありました。

これに対して執行部からは、県も市も「おかやま防災ポータル」で情報を得ている。国道の管理については道路管理者である県の判断に基づくものであるとの答弁がありました。

●今後の財政運営について

7月、8月、そして今回の補

正予算として合計90億円ほど計上されているが、今後どのような財政運営をしていくのか、また、来年以降の予算編成の見通しはどうかという質問がありました。

これに対しては、財政調整基金として30億円程度あったが、20億円ほど取り崩さされていた。当初予算で議決されている事業についても緊縮し、今後も事業費圧縮や延期の選択をせざるを得ない状況であるので、市民や議会とも十分意見交換をさせていただきたいとの答弁がありました。

また、次年度以降の予算編成については、当初から赤字を想定してはいないが、多額の基金を取り崩さざるを得なかったという点では単年度では赤字になることも考えられる。今後も



優良な財源を充当しながら来年度以降の影響を少なくしていきたいとの答弁がありました。

●ハザードマップの見直し

ハザードマップの見直しについて質問がありました。

これに対しては、今回のことを契機として、ハザードマップの見直し、内水排除や水門運用の検証を行い、具体的に防災計画の見直しを行っていききたいとの答弁がありました。

●避難所について

地域の実態に応じた避難所の指定、備蓄品の配置、介護や支援が必要な市民の受け入れ体制について質問がありました。

これに対しては、避難場所の指定については避難準備の際には市民センターと地域局中心に避難所を指定し、避難勧告になると全域にわたって避難所を広げる方針であるが、全ての避難所に職員を張り付けることは難しい。地域の方々と運営していただくところもあるが、避難

場所、備蓄品については今後検証していきたい。

要援護者の避難については災害時要援護者避難支援プランに基づいて民生委員、福祉委員、近隣の方々と対応していただいております。福祉避難所で受け入れを行っているとの答弁がありました。

●復旧復興事業に携わる職員の健康管理や人員配置について

災害以降、職員は働きづめで健康管理ができていないのではないかと、また、今後国の査定等で人員が必要な部署には職員を配置すべきではないかとの質問がありました。これに対しては、今は復旧復興に向けて大変ではあるがやらなければならない時期である。オンとオフは大切であるとされており、所属長の判断により適宜休暇を取ることをご指導している。また、今回建設課と農林課には人事異動を行っており、他の自治体からも職員派遣をしていただいているとの答弁がありました。

●被災住宅の応急修理について

被災住宅の応急修理をする場合、県と団体との協定によって支援を受けられるか否かの違いが出ています。同じように支援が受けられるよう市としてどのように対応すべきであるかとの質問がありました。

これに対しては、協定を締結した趣旨や団体の考え方を尊重する必要はあるが、今後柔軟な対応ができるのか検証していくとの答弁がありました。

●改良復旧について

昭和47年災害で被災した箇所が今回も被災している。復興を進める中で、再発を防ぐような対策をしないのかとの質問がありました。

これに対しては、改良復旧にあたっては相当程度の理由や、市独自の財源が必要となる。復興計画の中に盛り込んでいきたいとの答弁がありました。

●河川のしゅんせつについて

これまで大規模な河川しゅん

せつをしたことがないため河川の水位が上がったと考えられるので、しゅんせつを進めるべきではないかとの質問がありました。

これに対しては、川底が上昇してきており、しゅんせつは重要であると考えているので、高梁川全体について高梁川流域自治体が連携して国に要望していくとの答弁がありました。

9月定例会災害関連以外の審議

消防機能の更新や、病院事業会計決算を審議

平成30年第5回高梁市議会（定例）は、9月18日に召集され、議案21件を審議し、いずれの議案も全会一致で認定・可決しました。

総務文教委員会

●「高梁市地域経済牽引事業の促進のための固定資産税の特例に関する条例」は、

地域未来投資促進法に基づき県と市が共同で作成した計画により、ものづくりや物流など10の分野に企業が一定の施設を設置した場合に固定資産税の特例を定めるもので、市が独自に特例の上積みを行い企業誘致したかどうかとの意見がありました。

これに対し減収分の75%

は地方交付税で補填があり、残り25%は市が持ち出しをする答弁がありました。

●「財産の取得に関し議会の議決を求めることについて」

は、高機能消防指令設備の一部を更新し耐用年数を5年延長するもので、更新される気象観測装置はどのように活用するかとの質問がありました。

これに対し火災調査等に必要データとして活用していると答弁がありました。

●「平成30年度高梁市一般会計補正予算（第3号）」で51億5481万4000円を

追加するが、この補正で財政調整基金はどうなるのかとの質問がありました。

これに対し補正後の基金残高は約11億8680万円の見込みとなると答弁が

りました。

市民生活委員会

●「平成29年度高梁市国民健康保険成羽病院事業会計決算認定」

平成29年度も未処理欠損金が増えている。経営上どのように捉えているのかという質問に対しては、病院新築や機械器具の更新により多額の減価償却費が発生している。また、医師住宅

建設に内部留保資金を使っている。運転資金が枯渇して危機的ではないが、今後損失の解消、黒字化に向けて努力していきたいとの答弁がありました。

療養病床の回転率の低さや、介護医療院への転換に

ついて、自宅に帰ることができる方はなるべく自宅で過ごしていただくという方針で、療養病床の利用率が下がる面はある。介護医療院は特別養護老人ホームと同様「ついのすみか」という位置づけで、地域にとってそれが良いのかどうか、また、介護報酬が今後どうなっていくのかということも見通しながら考えていく必要があるとの答弁がありました。

●「工事請負変更契約の締結について」

高梁市養護老人ホーム・成羽認定こども園建設工事の金額が増額されているが、当初の見積もりをする時点で十分な設計をしておくべきではなかったのかとの質問がありました。これに

しては、今後も事前調査を詳細に行い、周辺地域への十分な説明や設計業者との打ち合わせを行い、変更をできるだけ少なくするよう進めていきたいとの答弁がありました。



成羽長寿園・成羽こども園（仮称）（10月26日撮影）

8月臨時会が開催されました

避難所開設や崩土の撤去など、災害関連予算約8億円などを審議

平成30年第4回高梁市議会（臨時）は、8月9日に召集され、一般会計補正予算など議案8件を審議し、いずれの議案も全会一致で承認・可決しました。

市長提出議案の内容

●「専決処分の承認を求めることについて」のうち、「平成30年度一般会計補正予算（第1号）」は、災害応急対応予算として7億9600万円を追加するもので、避難所開設や崩土撤去の費用、災害見舞金や土砂等除去扶助費、災害ごみ処理費、市道の応急復旧経費、斎場復旧事業費などを7月26日に専決処分したものです。また、「高梁市職員の給与に関

する条例の一部を改正する条例」については、他の自治体から災害支援の職員を受け入れるときの災害派遣手当の規定を専決処分したものです。

●「工事請負変更契約の締結について」は、豪雨の影響で成羽認定ことも園・高梁市養護老人ホームの建設の工期を8月31日から10月31日までに延長するものです。

●「平成30年度一般会計補正予算（第2号）」は、災害復旧経費として15億1246万6000円を追加するもので、災害見舞金、土砂撤去の拡充、企業への支援としての災害見舞金や再建補助金、利子補給制度の創設、大規模な災害復旧事業の測量設計費、小規模災害復旧費などを計上したものです。

●各特別会計補正予算では、水道施設、簡易水道施設、下水道施設の災害復旧費が計上されたもので、特別会計全体では16億4588万4000円となっています。



議案質疑

議員 被災された市民や企業などにきめ細かい対応と最大限の支援を求める。

執行部 市営住宅へ入居された方や避難所におられる方、罹災証明を発行した方々は全て把握しているのに対応する。ただ災害の全容がつかめていない部分もあるので、しっかりと把握していく。中小企業や個人事業主には、国の制度と合わせて市独自の制度を創設する。

議員 災害見舞金の拡充や土砂撤去後の復旧補助は考えていないか。
執行部 他市は災害見舞金をかさ上げする流れがあるので考えて行く。土砂撤去

後の復旧については部門間で協議が必要なので研究したい。
議員 消防団の方の車が活動中に水没したと聞いていますがその後の対応は。

執行部 保証組合から保証金と運営費で対応したい。
議員 農林災害を国へ申請する期限について弾力的な運用はできないか。

執行部 公共災害で期間を延ばしたことはある。豪雨により災害を受けたものは出来るだけ対応したい。

管内
視察

産業経済委員会

8月29日

産業経済委員会では、災害状況を調査するため、8月29日に管内行政視察を行いました。

・市道玉川落合線

玉川町と落合町を結ぶ市道玉川落合線の崩落現場では片側の車線が大きく崩れており、早期の復旧に対する要望が多く送られてきています。

・西本池

中井町西方の西本池では、池の周囲を走る市道の崩落現場を視察しました。



市道玉川落合線の崩落現場

・高倉町田井肉谷地区

高倉町田井肉谷地区の土石流被害現場では、山の山頂付近で発生した土石流で川沿いの住宅が甚大な被害を受けました。

・高梁浄化センター

高梁浄化センターでは、下水処理施設が冠水して電気系統が被害を受けました。雨水の排水ポンプは、建設以来初めて3基全てのポンプを稼働、さらに消防のポンプ車も総動員して排水を行いました。



高梁浄化センター

管内
視察

市民生活委員会

8月23日

市民生活委員会では災害復旧状況を調査するため、8月23日に管内行政視察を行いました。

・玉川地域市民センター

7月6日夜10時にセンターが冠水し玉川小へ避難、7日早朝に泥を掃きだし電気や電話等の復旧。早朝から窓口業務、被災者支援、災害ボランティア活動拠点として業務を再開。無休で対応しました。

・高梁市斎場

斎場全体が40、50センチ浸水し、火葬炉設備、空調設備、和室、控室、



玉川地域市民センター

事務所などが被害を受けました。再開見込みは10月中旬で、その間は総社市、新見市、吉備中央町、広島県神石高原町で対応していただきました。

・成羽病院附属備中診療所

診療所1階が床上浸水し、医療機器、電子カルテシステム、公用車3台が被害を受けました。復旧作業に地域住民や診療書職員が従事し、7月17日に診療再開。使用不能になった機器を使用する患者は成羽病院で対応しました。



成羽病院附属備中診療所

管外
視察

市民生活委員会

10月16日～10月17日

訪問地…福岡県みやま市、熊本県山鹿市

みやま市ではスマートエネルギー施策とバイオマス産業都市構想を視察しました。メガソーラーや第三セクターの電力会社によりエネルギーの地産地消と生活支援サービスを行っています。また、メタン発酵発電液肥化プロジェクトを進めることにより循環型社会の実現を進めています。

山鹿市では窓口業務の民間委託について視察しました。公共サービス改革法を受けて、民間活力を生かし市民サービスの向上と行政コストの削減のために、平成27年10月1日より市民課窓口業務の民間委託を開始しました。



熊本県山鹿市議会

管外
視察

議会運営委員会管外行政視察

10月11日

訪問地…真庭市

議会運営委員会では、議会のICT化（情報・通信技術の活用）に向けた研究のため、真庭市を視察しました。

真庭市では、議案をタブレット端末に表示できるようになったため、予算・決算書を除き、印刷物は12月議会から廃止する予定です。事務局からの連絡・通知も全てメールで行うとありました。

議案など印刷物を廃止すること

でのコストダウンや省エネルギーが図られ、メール通知機能を活用することで事務連絡の軽減も図られたそうです。

タブレット端末は議会費から議員と事務局分のレンタル代を支出し、端末の通信費は議員個人の負担としていました。

タブレット端末を議員全員が同じように使えるのかという質問には、議員全員で決めたことなので

慣れてもらうしかないとの回答でした。

視察でタブレットを触って

てみましたが、画面がとても見やすく操作も簡単という印象でした。



真庭市議会

平成30年10月から新体制になりました
(任期2年)

議長 小林 重樹

副議長 宮田 公人

常任委員会

総務文教委員会

○内田大治

○石井聡美

川上修一 倉野嗣雄
三村靖行 石田芳生

市民生活委員会

○黒川康司

○石部 誠

川上博司 小林重樹
森上昌生 森 和之

産業経済委員会

○森田伸一

○伊藤泰樹

大月健一 宮田公人
宮田好夫 平松賢司

議会運営委員会

○川上修一

○川上博司

宮田公人 森田伸一
内田大治 黒川康司

特別委員会

議会広報公聴
特別委員会

○石田芳生

○石井聡美

川上博司 宮田好夫
石部 誠 森上昌生
森 和之 伊藤泰樹

高梁地域事務組合
議会議員

小林重樹 森田伸一

黒川康司 石部 誠

伊藤泰樹
高梁市監査委員
倉野嗣雄

○委員長 ○副委員長

9月議会は災害対応のために期間を短縮しての開催となりました

議会運営委員会

(7月26日)

決算審議は12月に持ち越し

9月議会は、9月4日の開会予定が豪雨災害により、9月18日の招集、一般会計と特別会計の決算は12月議会で提出したいと執行部から提案されました。これを受け議会運営委員会は7月26日に対応を協議しました。

委員から議会が開会すれば、執行部は議会対応に迫られるので、会期短縮を考える必要がある。一般会計の日程や質問時間の短縮をしたらどうか。一般質問は議員の権利だが、大災害の対応を優先しなければならぬ。議案質疑でしっかりと質問をすれば一般質問はなくてもよい。などの意見が出ました。他の自治体でも同様な事実もあったとの報告もあり協議の結果、会期をできる限り短縮するため9月定例議会に限り一般質問を

見送ることを決定し、8月9日の全員協議会で報告しました。

全員協議会

議員からは、一般質問は行うべきだとの声も

全員協議会では、9月定例会は災害対応などから期間を短縮したい。このため一般質問は今回限り省略する事が議会運営委員会で決定されていると議長より報告がありました。

これに対し議員から一般質問は議員が積極的提案をして、市へ対する意見や要望を行うもので、これを行わない議会は考えられない。市民は議員がどのような質問し、執行部がどう答えるかに関心を持っていて。質問項目を絞ってでも行うべきだ。被災しても一般質問や代表質問を行っている議会がある。こういった時こそ一般質問

問をすべきだ。との意見がある一方で一般質問があれば担当課は答弁準備を行い質問中は待機しなればならない。災害対応業務が手薄になるので配慮すべきだ。全員協議会は意思決定の場では無いので出された意見も参考にして再度議会運営委員会で協議したらよい。と言った意見が出されました。

議会運営委員会

(9月13日)

全員協議会での意見をふまえ9月13日に開催された議会運営委員会において、今回の災害関連議案の質問は慣例によらず担当委員会の委員であっても質問できることとし、一般質問は見送ることが決定されました。

編集後記

7月豪雨災害や台風の襲来は、各所で河川の氾濫や土砂崩れなどが発生し、大変大きな災害となりました。復旧・復興対応が行われる中、招集された9月定例市議会は期間を従来の半分程度に短縮し一般質問は見送りとなりました。

次の12月議会では、災害の要因や対策、復旧・復興や各種支援、対応の在り方など豪雨災害関連の質問が多くなると思います。

議会は議員と執行部が議論を闘わせる場で、議論によりより良い方向性が導かれます。その議論を分りやすく知らせるのが議会だよりです。10月に議会広報公聴特別委員会は体制充実を図りました。次回の委員会で広報誌や議会報告会の充実などと、SNSを利用した情報発信や情報共有など新たな方法も考えていきたいと思っています。

(宮田好夫)

編集

委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会広報公聴特別委員会
伊藤泰樹	森和之	森上昌生	石井聡美	石部誠	石田芳生	宮田好夫	